

チャイルドラインについて

こまえチャイルドライン

代表 半田きさ子さん

こまえチャイルドラインの半田きさ子です。

最初にお話をいただいたときに、チャイルドラインって何ですか、狛江にもあるんですかという質問がまず最初に飛びこんできました。知らなかったんですか、と聞いたら、ぼく知らなかったんですよと言われて、「では基本からお話ししてよいですか」、「そうして下さい」ということで、そこら辺から話をさせていただきます。

チャイルドラインは子どもたちの声を聞くものです。18歳までの子どもたちの声を電話で聞いたり、一緒に考えたりします。イギリスが発祥です。1986年にイギリスでチャイルドラインが誕生しました。子どもの虐待が話題になっていた時代で、何とかとり上げようとしてBBC放送のプロデューサーの方が“電話”という特設のものをつくって、受けました。そうしたら、なんと1日に3000本の電話がかかってきました。さらに、話し中のためにつながらない電話が7000件。これはもう子どもたちの電話を聞いていられないということで、イギリスではBBC放送が中心となってチャイルドラインを立ち上げました。それはイギリス以外に、イタリアとかカナダとかどんどん広がっていています。日本へはいま世田谷区長になっています保坂さんが一番有名なのですが、何人かと（世田谷子どもの命のネットワーク）イギリスに視察に行き、これは日本にも必要だよと持ち帰り、世田谷で始めたのが1997年。その時に何人かの有志の方が世田谷チャイルドラインを立ち上げました。電話でつながる子どもたちとのツールができ上がってきたが、最初は試行錯誤で、いまはフリーダイヤルという名前があるのですが、その当時はなかったから、03で掛けてきたら、すぐそばにいるかもしれない、駆け付けよう、助けてあげなくてはいけないという動きの時期もありました。いまはチャイルドラインはそういうことを趣旨としていないので、当時は世田谷でそうした動きもあったのですが、丁寧に話を聞く、チャイルドラインになっています。牟田悌三さんという俳優さんがやはり全国組織にして繋げていこうということでつくりました。チャイルドライン支援センターができ、そこから全国に広がって行きました。赤色のところが世界のチャイルドラインのある国で、アフリカもあれば南アメリカにもあるし、もちろんヨーロッパにもオーストラリアにも広がっています。

子どもたちのニュースをご覧になっているので、チャイルドラインでどんな電話を受けているの、狛江にどうしてチャイルドラインをつくったのかなど疑問を持たれていると思います。

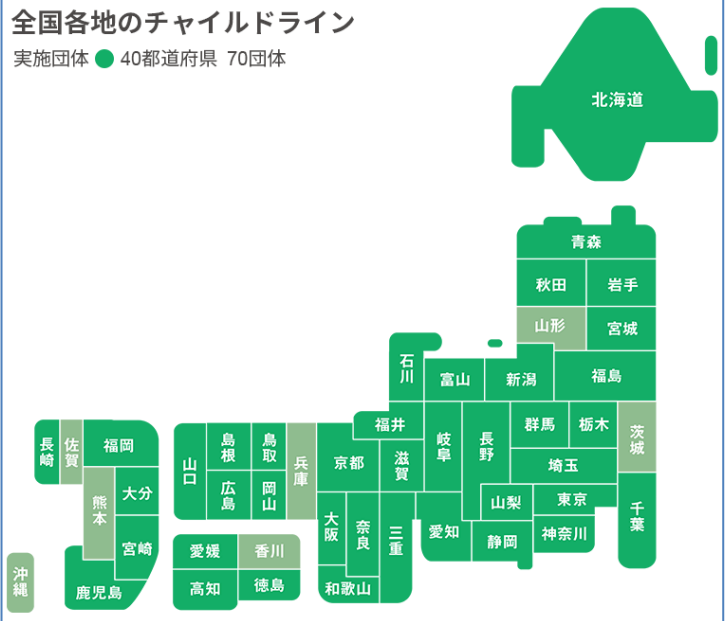


赤:加盟国 オレンジ:準加盟国


これが全国のチャイルドラインです。東京には12あります。北海道・京都・大阪には各2か所。色のついていないところは沖縄、熊本、佐賀などの県はチャイルドラインがありません。兵庫県にチャイルドラインはありますが、支援センターでやっていることと趣旨が違うということで、支援センターの下では活動していません。

狛江でどうやってチャイルドラインが出来上がったかという話に行きます。私は中野区で35年間保育士として働き、中野区に住んでいました。縁あって狛江に引っ越してきました。

それは仕事の途中でしたので、その時は中野に通勤するだけで精一杯で、チャイルドラインは中野ではできていましたが狛江ではやっていませんでした。55歳で早期退職しましたので、少しエネルギーが残っていませんでした。中野でやっているのだから、狛江でもやりたいなと思いました。そして、社会福祉協議会に働きかけて、趣旨の話をしてお願いしましたが、なかなかうまくいかなくて、その時に（聴覚障害者会の）長谷川さんがお住まいの和泉本町1丁目の町会の会議でチャイルドラインの話をしてご覧と言われました。月に1回あったのですが、ちょっと時間が余るとチャイルドラインの話をさせてもらいました。いまこんな電話を受けている、こんな状態だ、何軒ぐらいの電話がある、という話をさせていただいたら、町会の方々が趣旨に賛同して、立ち上げに苦勞しているのを見て、皆さんカンパをしてくださりました。その資金を基にチャイルドラインを立ち上げることができるようになりました。いまは恵まれています。最初は我が家の染色小屋が電話を受ける場所でした。2畳ほどのコンクリートの部屋ですが、そこで受けていました。でも、チャイルドラインの趣旨としては自宅で電話を受けるのは×。それはいけないのです。どこか探さなくてはと思い、必死に探してなかなか見つからなかったのですが、また、町会の方が助けて下さって、使っていない部屋を使っても良いよと。そこを貸していただけることになりました。そちらに移り、1年間ほどそこで電話を受けることができました。そちらも自宅なので、都合があるため、いつまでもという訳にはいきません。どうしようと思っていたときに児童青少年課が動いて下さって、いまの場所をお借りすることができますようになりました。実は場所は明かさないとというのが約束事です。知っている方は多いかと思いますが、言わないことになっています。そ



—電話でつながる




子どもの声

● どうすればホームラン打てますか？ (小学校高学年)

- 赤ちゃんが生まれた。抱っこもギューもしてもらえない。(小学校低学年)
- 少々頑張ったくらいでは成績が変わらない。「学業不振」だって言われてもね…。(高校生)
- 妊娠したかも。(中学生)
- リストカットを繰り返してる。流れる血を見て生きてるって感じられる。(中学生)
- 友だちが急に転校して、さよならも言えなかった。涙がいっぱい出た。(小学校高学年)

※プライバシーに配慮して再構成しています



電話の受け手の声

- 「死ね」と吐き棄てて切れる電話。いろんなものがたまっているんだろうな。もっと話してくれるといいんだけど。
- 「性」に関する電話の多さに「性教育」の必要性を提起したい。科学的知識として最低限、自分のからだのことは知っておくべきだと思う。
- 親との関係や成績などで先が見えなくなっていた中学生が、話すことでだんだん整理がついた。子どもの力ってすごい。

子どもの現状データ

うやあって、狛江にたちあげて、何とかやってくることができました。プログラム同封のチラシを後でじっくり読んで下さい。発足は2015年5月です。

掛けてくる話ですが、子どもの声と書いてありますが、赤ちゃんが生まれた。抱っこもギューもしてもらえていいなとか（小学生低学年）、中学生で妊娠したかもといってきたり、……色々な電話がかかってくる。切実な子どもの声、……。話し相手になって欲しいという電話もあります。医者から、話ができるようにチャイルドラインに電話したらと言われて電話してくる子もいます。1月から電話が2台になったので、大体、50～60件を1晩で受けます。夕方4時～9時まで。表は2017年度でまだ電話が1台の時の合計。1年間1422件、会話成立が563件。月別入電数が多いのは9月。自殺の多い月で、私たちも緊張して受けます。統計的には大体こんな風に電話が掛けて

2017年度 こまえチャイルドライン実施報告 1

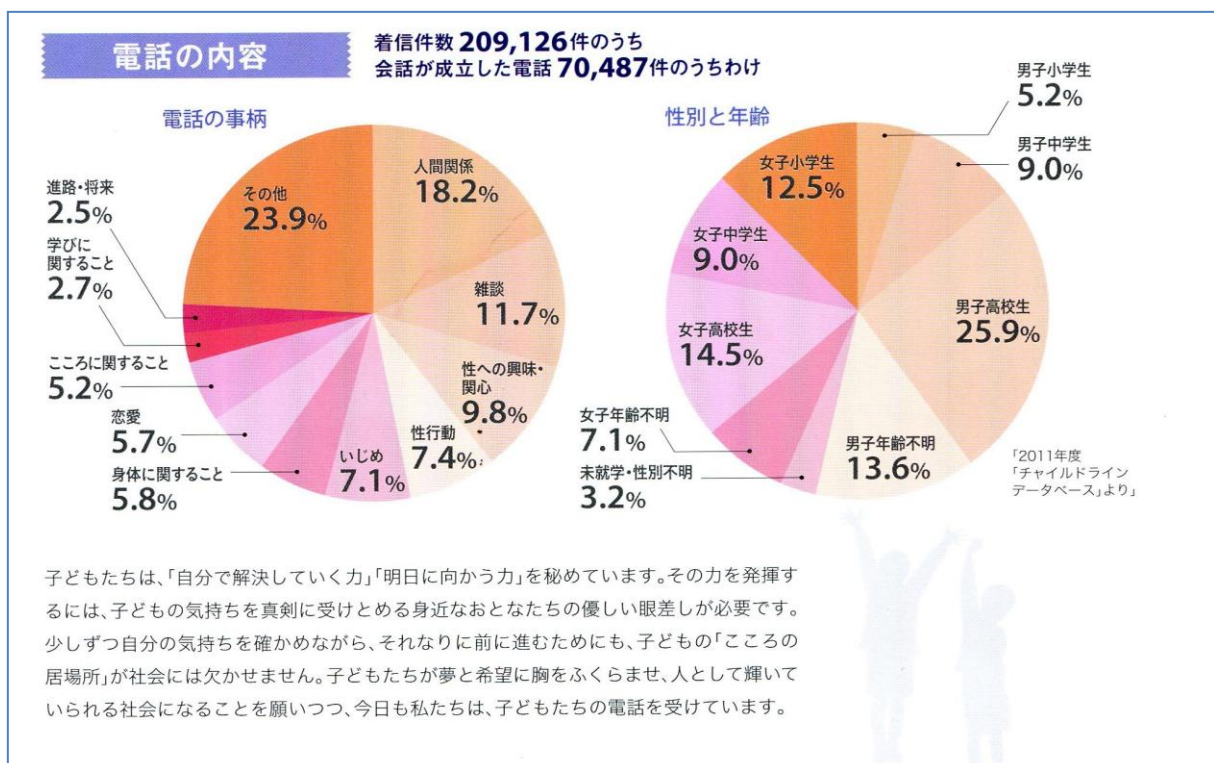
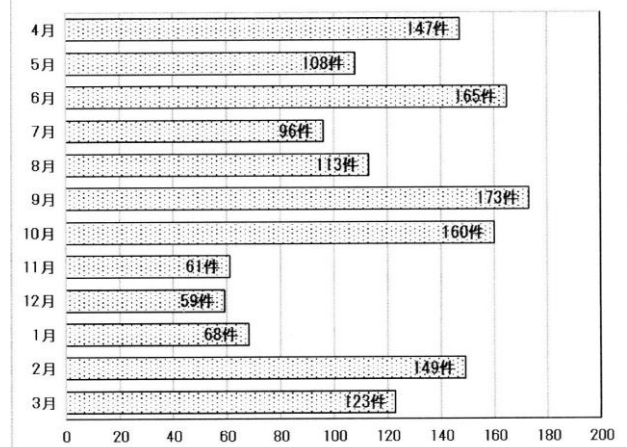
総着信数	うち会話成立	開局回数
1,422件	563件	47回

います。男女別では実は男の子の方が圧倒的に多い。このところに来て女の子が増えています。女の子はおしゃべりで良く話をしているので少ないと勝手に思って、電話してくる時は切実な電話が多いと勝手に思っていました。近頃はそうでもないし、変わってきているなあと思います。

次は電話の内容です。人間関係、雑談、性への関心、性が多様化している分いろいろあります。

いじめ、信じられないような話が色々あります。

月別入電件数（2017年4月～2018年3月）



子どもからの声

ずっと仲良しだったAちゃんが、今日学校で私のこと無視して、他の子たちと一緒にしゃべっていたの。私もその仲間に入ろうとしたら、話をやめて、「何か用？」って言ったの、びっくりして「ううん…」って答えたら、「あっちに行って」って。帰りもひとりぼっちで帰ってきたんだ。
(小学生・女)

うち、母子家庭で、お母さん働いているけど、夜になってもなかなか帰ってこない。おなかすいちゃう。冷蔵庫の中にも何にも食べるものないんだ。今度社会科見学があるんだけど、まだお金払ってない。お母さん、お金ないと思う。どうしようかな、と思って…
(小学生・男)

大学受験、ぜんぶ落ちちゃった。今日学校に行ったら、担任が大きな声で、「なんだ、お前は、どうする気だ」って、みんながいるところで言ったんです。受かった子も来ていて、その子には「よし、よくやったって」…私、どうしたらいいんだろう…
(高校生・女)

※この内容は、チャイルドラインに実際にかかってきた電話の内容をもとに、再構成されたもので、電話そのものではありません。チャイルドラインでは、子どもからかかってきた電話を直接外に出すことは、子どもとの約束でしていません。

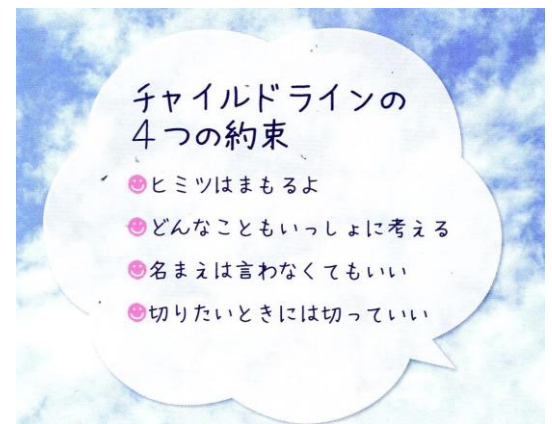
電話の受け手について、

受け手を支えている人を支え手と言います。

受け手は10回の講座を受けて、その後受け手の横で聞いてもらいながら慣れてきたところで受け手になってもらいます。受け手はここに4つの約束が出ていますが、①ヒミツはまもるよ②どんなこともいっしょに考える③名まえは言わなくてもいい④切りたいときは切っていい、の約束を守って電話を受けます。子どもたちの気持ちに寄り添ってお話を聞くのですが、聞くという言葉には

3つあるのをご存知ですか。聞く、聴く、訊く。受け手は聴くを目指しています。受け手になった人は自分が「受けている」と言わない約束になっています。自分の子どもが中学生や高校生だったとしたら、お前の母さん、チャイルドラインの電話受けているんだってと知れたら、電話を掛けなくなります。嫌じゃないですか、知り合いの母さんが電話に出ると思ったら。だから受け手は受けていることは言いません。もちろん家族で人には言わないからと言って話している人はいます。建て前として受けていることは言いません。チャイルドラインを手伝っている、カード配るとか、その様に話してもらうようにしています。受け手の人を守るということもあります。どこで受けているということも言いません。知られたことで、待ち伏せされるかもしれないと怖い思いをしたこともあります。受け手を守るためにもとても大事なことです。そんな大変な受け手の人が粕江では20名近く、電話を受けてくれています。とてもありがたいことです。

さっきから市役所の話をしてしていますが、書類を提出することで、1年間会場を借りています。また、小学校、中学校、高校にカードを配布する助成金をいただいています。運営



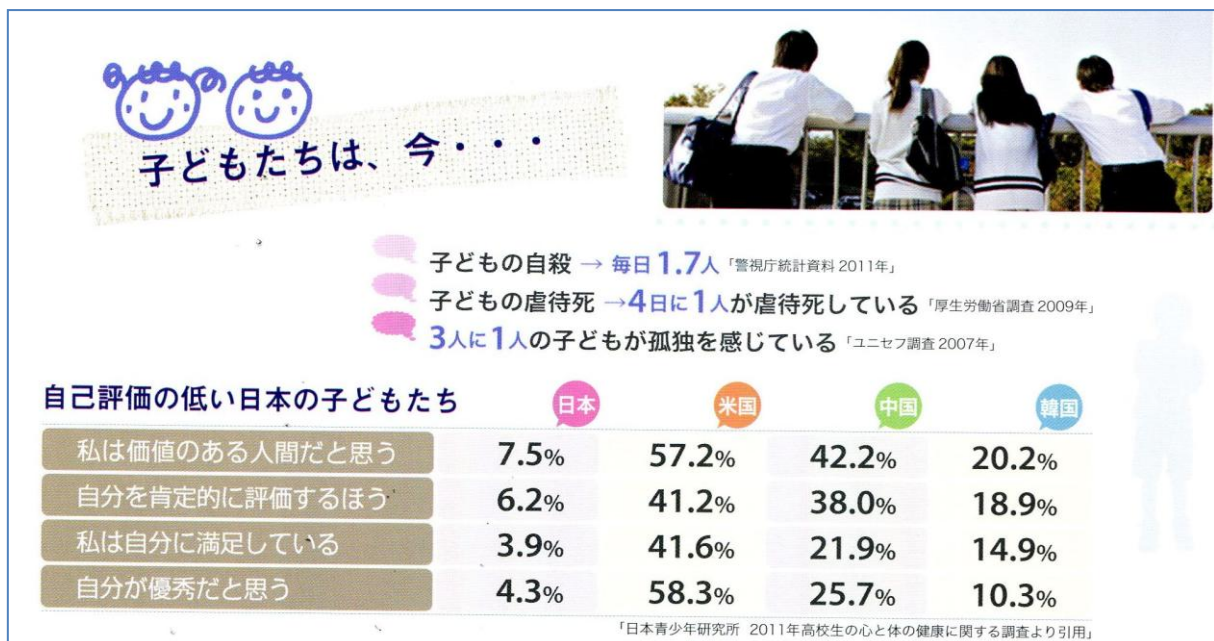
18歳までの子どもがかける
チャイルドライン

0120-99-7777

電話代はかかりません。携帯・PHS OK。毎週月～土 24時～29時

主催：特定非営利活動法人チャイルドラインさっぽろ 後援：北海道・札幌市・北海道教育委員会・札幌市教育委員会

のために会議を開いているのですが、その会議室も借りる手はずを採っていただいています。私たちも児童青少年課の方にその都度、電話の件数、内容など話せることは伝えるようにしています。冊子をつくって報告させていただいているのですが、これも提出して、読んでいただいています。狛江市の方でも、困ったときには電話してねとチャイルドラインの電話番号を入れたカードを配っていただいています。



子どもたちの話にいきます。

ここに自己評価の低い日本の子どもたちと書いてあるが、本当に自信が無くて、どうしたら良いか分からなくなる子どもからの電話が沢山あります。今の子ども様子は、新聞やテレビで悲惨な話を目にしていることと思います。千葉の話とか火傷したのを放置していた話とか虐待の話ですね。目にする新聞記事だけではなくて生きにくさを感じて、自己評価が高くなれない子が沢山います。例えば、両親から過度のしつけを受けたり、期待が大きかったり、放置されたりいじめられたり、ご飯もらえないとか、おやつを食べさせてもらえないとかお風呂に入れてもらえないとかではないけど、困っている子どもが沢山います。そういう子どもは本当に困ったことが起きて、両親にはなかなか話ができせん。だって、お母さんやお父さんに怒られるからとか、きっと心配するから言えないというような言い方をします。ご両親だって自分の期待することとかご近所の思惑とかでがんじがらめになっていることがあると思うのですが、そういう子どもが増えているというのが現状です。チャイルドラインはいまの子どもたちの様子を聞きながら受けていきたいと思っています。チャットなどは支援センターで試行が始まっています。パソコンによるやりとりで子どもたちの話を聞くということも始まっています。

受け手の話ですが、養成講座を狛江でもやりたいと思っています。興味が湧いて、やって見ようかと講習を受けて仲間になっていただけたら嬉しいです。

最後にお隣の川崎で子どもの権利条例があるのをご存知ですか。私たちチャイルドラインも子どもの権利条約という世界で施行されている条約の下に運営されているのですが、川崎に子どもの権利条例があるのですが、それがつくられたときに子どもたちが自分たちの意見も吸い上げてよと言って、子どもたちだけで委員会をつくったのです。それを基にして権利条例ができました。子どもたちの意見がとても素敵なので、最後に読み上げさせて下さい。

大人の皆さまへ

まず大人が幸せでいて下さい。

大人が幸せで無いのに子どもだけ幸せにはなれません。

大人が幸せでないと子どもに虐待とか体罰がきます。

条例に、子どもに愛情と理解を持って育まれるとありますが

まず、家庭や学校、地域の中で大人が幸せでいて欲しいのです。

子どもはそういう中で安心して生きることができます。

これが、2001年3月に、子どもの権利条例の子ども委員会のまとめです。

私はこの話が大好きで、こどもは大人が幸せでなければ幸せになれない、

子どもの権利条例をつくった方に感謝したいし、この良い条例が続きますようにと思っています。もちろん、狛江にもできたら良いですよ。

質問1：子どもたちの話を聴くという良い活動をされていると思います。実際に話を聞いて、虐待とかかなりシビアな話で、直ぐに手を打たなくてはいけないという時にはどうするのですか？

答え：そういう電話は時折り掛ってきます。まず聴き切ることが目的なので、子どもの状態などを聞いていきます。そして、最後にどこかに知らせたい、いまの自分の状態を助けて欲しい、と訊ねます。それは沢山聴いてからです。本当に聴いて、聴いて、聴いてこれだと思ったときに、そのあとに訊ねます。資料として、いつも色々な施設、弁護士協会とか人権擁護協会とか、いろいろな資料はファイルにしていつも机の上に載っています。その中で、一番適当と思えるもの、電話できると思えるものを伝えます。虐待では交番が大きな役割を果たしています。いま助けて欲しいなら、交番に行ったらと言います。交番が無いと言ったら警察署を勧めます。そういうところで助けてくれることが可能であると政府は言っていますので、私たちもその様に伝えています。

質問2：緊急の状態にあるとき、児童相談所に繋げることは？

答え：いろんな事例があり、一概に言えません。そういうところに相談したら、と言うと切ってしまう子もいる。色々なことを経験していてそう言うところには行きたくないと思っていて相談してくる、気持ちを伝えたいという電話もあります。いま外に居るんだけど助けて欲しいという電話もあります。私たちはフリーダイヤルで受けていて、全国から電話が掛ってきているので、必ずしも自分の身近なところでは限らないので、難しいです。

質問：死にたいとかの電話は？

答え：一晩に2、3件あります。電話しながらリストカットしているという子もいる。電話を聴いていると、そうしなくては居られないという気持ちになっているということがあるじゃないですか、単に遊び半分で死にたいとかリストカットする子はいない、背景に重たいものをしょっているからそうなるので、まずはその荷物を横に降ろしてあげられるような話の聴き方ができるように努力している。例えばリストカットしているという子に、あなたはそれ位我慢してきて、自分の中で一生懸命頑張ってきたんだよね、偉かったんだね、でも少し楽になった方がいいよね、というような言い方をしたりすることもあります。でも、本当にケースバイケースで、その場その場で言い方を変えたり、時には黙ってそうだねとうなずくだけということもあります。色々あって、これなら！とは誰も言えません。

質問：カウンセラーの方は携わっていますか。

答え：そう言う方もいるとは思いますが、でもお母さんであった方で聴くのが上手な方は沢山います。チャイルドラインは「話を聴く」なので、相手の話を聴ける方が適任なので、カウンセラーであるとか学校の先生であるとかはあまり関係ありません。本当に相手の話を聴きたいという方が受け手になっていきますので、どうぞ皆さん受け手に応募して下さい。なりたいと思ったらどんどん来ていただくと嬉しいです。今年は秋から受け手養成講座をします。男女の性の話もしますし、子どもの権利条約の話もあります。10回の講座の後に自分にもできそうと思ったら、受け手の傍で聞いていただいて、できるかなと思ったら電話に出ていただくようになっています。緩やかな形でやっていますので、決して無理はしません。でも、1年やった方に、受け手をやって見たらといったら、えっ！とビックリされていましたが、受けたらウン、とうなずいていましたので、えい！という時もありますが、本当に待ちますので、どうぞ来て下さい。昔、世田谷は60歳までとしていましたが、いまは年齢制限もありません。お待ちしております。

支援募金の振込先は以下の通り。

口座名義　こまえチャイルドライン
みずほ銀行　狛江支店（普）1123674